



日野町長
藤澤 直広

さらに元気で温かい町づくりを

綿向山が早春の陽射しを受けて輝いています。梅の花が咲き、香る3月。日野町は、「町村合併60周年」を迎えることができました。「平成の合併」を乗り越え、日野町が日野町として確かな歩みを進められることは大変うれしいことです。町民の皆さんのご協力と先人の皆さんのご労苦に心より感謝申し上げます。

「ひびきあい『まちのたから』を未来につなぐ自治の力で輝くまち」をスローガンに掲げる第五次日野町総合計画は、5年目を迎えました。おかげさまで色々な事業



日野町議会議長
杉浦 和人

地方創生に向けて

日野町は昭和30年3月16日、1町6カ村が合併して、本年は記念すべき60周年を迎え、皆様とともに喜び申し上げます。今日まで日野町発展のため色々ご尽力いただきました先人の皆様方、住民の皆様方に深く敬意と感謝を申し上げます。

日野町は町民の皆様様の参画と協働のもと、合併に頼らず持続的に発展可能なまちづくりを目指してきました。しかし、平成の大合併において、町村が疲弊し人口減少

が一步一步進んでいることはありがたいことです。

今、「田園回帰の時代」と言われ、田舎を大切に思い、住んでみたいと考える都会の人達が増えています。田舎には豊かな自然があり、歴史と伝統があり、助け合って生きる社会があります。そして、それぞれの人々に役割があり、存在感があり、自治の気概があります。

日野町の人々も自然と共生し、自治の気風を大切にしながら歩みを進めてきました。毎年、近江日野田舎体験で3,000人を超える子ども達がやってきます。子ども達は町民のみなさんと触れ合い、田舎にはある「助け合って生きる社会」を体感し、人の温かさに心を震わせています。

経済至上主義から脱却し、誰もが心豊かにそして幸せになる社会を築かなければなりません。日野町合併60周年を契機にさらに元気で温かい町づくりを進めるために力を合わせたいと思います。どうかよろしくお願ひします。

が地方から始まったと言われております。昨年は「日本創成会議」の人口減少問題分科会が「消滅可能性都市」というショッキングな話題を発表し人口減少問題に警鐘を鳴らしました。そのため、国においては地方創生関連2法案をすでに成立させ、地方から日本を創生する取組みが今年から強化されようとしております。

日野町議会といたしましても、日本創生元年に日野町として何をすべきか、皆で意見を出し合い住民と行政と議会が一丸となって確かなまちづくりを進めるため、二元代表性の一翼を担っていきたくと考えています。

また、今までに議会基本条例、議会議員政治倫理条例を制定し、開かれた議会を目指して議会改革に取り組んでまいりましたが、更なる地方分権時代に対応するべく研鑽につとめて参ります。

結びに日野町の一層の発展と皆様のご健勝、ご多幸をお祈りいたしましてご挨拶とさせていただきます。

60年を語ろう

